

URGCCマトリクス

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】					建築学学士教育プログラム			
	URGCC学習教育目標	自律性	社会性	地域・国際性	コミュニケーション・スキル	情報リテラシー	問題解決力	専門性
		自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。
学士教育プログラム学習教育目標	A. 国際性、地域性、多面的理解: 地域の歴史と自然、物事の価値を国際的視野から多面的に捉え、豊かな生活環境のあり方を構想できる素養	○		○				
	目標Aは、地域・国際性を身に付けることとほぼ同じ目標を意味している。 自律性は全ての目標に関わる項目である。							
	B. 社会・倫理: 建築関連技術が社会や自然環境に及ぼす効果・影響と、社会的責任をもつ建築技術者としての倫理を理解する能力	○	○					
	目標Bは、社会性に関わる目標を建築技術者における目標として表現しているものである。 自律性は全ての目標に関わる項目である。							
	C. 自然科学: 数学・自然科学・情報技術に関する知識とそれらを建築技術に応用できる能力	○				○		○
	目標Cは、情報関連の能力の習得及び専門性の基礎となる自然科学の修得を意味している。 自律性は全ての目標に関わる項目である。							
D. 建築の専門技術・基礎: 以下の分野にわたる基礎的・包括的な素養と、特定分野の高度な専門知識とその応用能力 (1) 建築の歴史・芸術性・計画論・居住理論・都市計画・法制度等を学ぶ文化的・社会的分野 (2) 都市・建築の音・光・熱等の環境及びそれらを制御する設備を学ぶ環境・設備分野 (3) 安全な建築物のための構造学・材料・構法・防災等を学ぶ構造・材料・防災分野 (4) 企画・計画・設計製図及び施工・生産を学ぶ設計・施工分野	○					○	○	
目標Dは専門性に関わる目標を示すものである。工学、建築学に関わる専門性は問題解決力を含んでいる。 自律性は全ての目標に関わる項目である。								
E. 社会性、問題解決能力: 社会の要請を的確に捉え、種々の領域と連携しつつ課題を解決できる能力	○	○			○		○	
目標Eは、社会性に関わる目標をコミュニケーション・スキルをもととして諸分野と連携しつつ問題を解決する能力を獲得することを意味している。 自律性は全ての目標に関わる項目である。								
F. 情報リテラシーとコミュニケーション能力: 幅広い情報と知識を適切に収集し、言語やコミュニケーション手段を的確に用いて記述、発表、コミュニケーションを行うことができる能力	○				○	○		
目標Fは、情報の収集と活用、及びコミュニケーション・スキルを獲得することを意味している。 自律性は全ての目標に関わる項目である。								